

埋文センターニュース

第17号

2003.3.31

津市埋蔵文化財センター



鎌切3号墳埋葬施設

安濃津をゆく その④

半田丘陵・長谷山山麓の遺跡

前々回の「安濃津をゆく その②」では、
安濃川流域の沖積地に立地する遺跡を紹介し
ましたが、今回は、この沖積地の南側と西側
に広がる丘陵（半田丘陵と長谷山山麓）に立
地する遺跡を紹介します。この地域には、以
前から数多くの古墳が分布することが知られ
ており、昭和30年代以降、断続的に発掘調
査が行われてきました。ここでは、これまでの
発掘調査の成果をもとに、この地域の歴史
をみてゆきたいと思います。

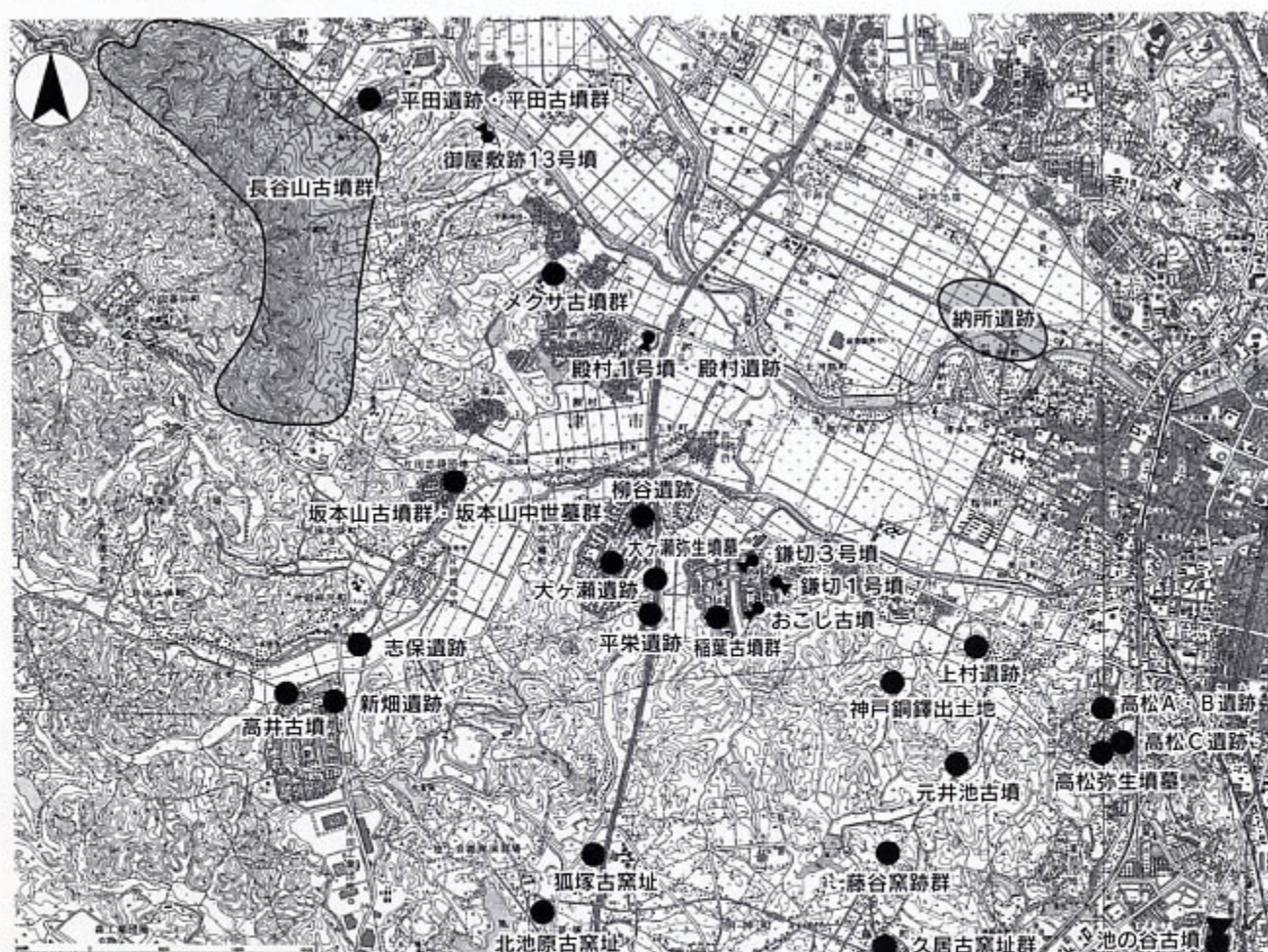
旧石器時代～弥生時代

この地域の旧石器時代から縄文時代の様子
は、あまりよくわかっていません。しかし、
安濃町妙法寺の平田遺跡では、旧石器時代に
遡る可能性のある石器が3点出土しており、

注目されています。

津市内に最初に弥生文化が定着したのは、
安濃川のほとりの納所遺跡ですが、これから
やや遅れて半田丘陵に上村遺跡が出現します。
上村遺跡は、今のところ住居跡は検出されて
いませんが、出土遺物が前期から後期に及ん
でいることから、半田丘陵における中心的な
集落になるものと考えられています。

中期の状況は未詳ですが、後期になると遺
跡数が急増します。大ヶ瀬遺跡、柳谷遺跡、
平栄遺跡など数棟の竪穴住居で構成される集
落が多いなか、高松C遺跡は後期から古墳時
代初頭にかけての竪穴住居が29棟と規模が
大きく、高松A・B遺跡などとともに一大集
落群を形成していたものと考えられます。



遺跡位置図（1：50,000）〔国土院『津西部』『津東部』1：25,000より〕

弥生時代の特徴的な祭祀具である銅鐸は、この地域から2点出土しています。神戸銅鐸は外縁付鈕式の流水文銅鐸で、兵庫県倭文銅鐸、大阪府恩智垣内山銅鐸、伝奈良県出土銅鐸と同じ鋳型で作られています。一方、野田銅鐸は東海地方に多い三遠式銅鐸で、いわゆる「見る銅鐸」にあたります。神戸銅鐸と野田銅鐸の時期は異なっていますが、前者は西に、後者は東に関係をもっていたことになり、当時の文化交流の意外な複雑さがしのべれます。

弥生時代の墓制については、後期になると大ヶ瀬弥生墳墓、高松弥生墳墓、高松C遺跡、殿村遺跡など、丘陵上に方形台状墓が出現します。これらは集団墓から隔絶した個人墓として造られたもので、次代の古墳時代への胎動を感じさせるものです。

古墳時代

津市内で最も古い古墳は、長谷山南麓の坂本山古墳群です。4世紀代に出現したこの古

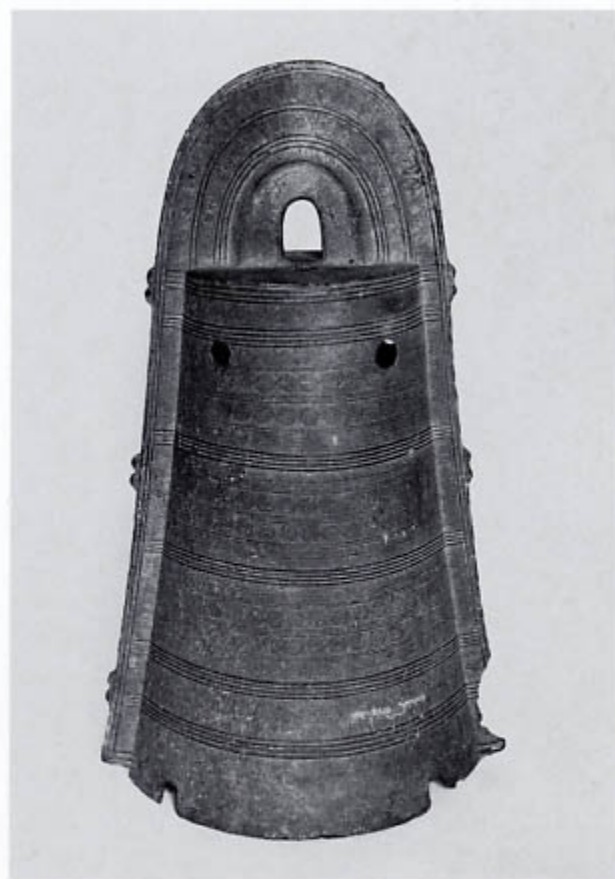
墳群は、ほとんどが方墳で構成されること、副葬品もわずかであることなど、弥生時代の方形台状墓の系譜を色濃く引いているものと考えられます。

4世紀末になると、伊勢湾を見下ろす丘陵頂部に、全長約90mの前方後円墳である池の谷古墳が出現しますが、この地域でも、5世紀後半以降、比較的小型の前方後円墳が築かれてゆきます。これらの前方後円墳は、ある程度の距離をおいて分布する傾向にありますが、そのなかで、神戸・野田地区には3基の前方後円墳（鎌切1号墳・鎌切3号墳・おこし古墳）が集中しており、5世紀後半から6世紀前半にかけて、有力な首長が続いたことを物語っています。このうち6世紀前半の鎌切3号墳は、発掘調査が行われており、振り環頭大刀や馬具といった首長の古墳にふさわしい内容の遺物が出土しています。

6世紀代に入ると、古墳の様相は多様化し、数も増加してきます。形象埴輪が多数出土し



神戸銅鐸 (写真提供 東京国立博物館)



野田銅鐸

稲葉古墳群、方墳のみで構成されるメクサ古墳群、墳頂部で葬送儀礼が行われた可能性のある堅穴遺構が検出された元井池古墳など多彩な古墳が築かれてゆきます。

6世紀後半から7世紀代になると、古墳は爆発的に増加します。長谷山古墳群は、長谷山の東麓を中心に築かれた県内最大の群集墳です。現在までに450基以上の古墳が確認されており、分布形態から30余りの支群に分かれています。それぞれの支群の内容は様々ですが、直径10m前後の古墳が多く、大部分が横穴式石室をもっていたと考えられます。このようにたくさんの古墳がまとまって造られるようになったのは、首長層以外の人々も古墳を造るようになったからで、家族墓的な性格が強いと考えられています。

古墳時代の集落は確認例が少なく、この地域では新畑遺跡で堅穴住居が検出されているだけです。出土遺物から、坂本山古墳群とはほぼ同時期の集落と考えられています。



坂本山古墳群（6号墳）



鎌切3号墳

古墳時代の生産遺跡としては、半田丘陵の南部に久居古窯址群、藤谷窯跡群、北池原古窯址、狐塚古窯址などがあります。このうち久居古窯址群は、おもに須恵器を焼いた窯跡で、操業開始は5世紀後半と考えられています。一方、藤谷窯跡群は、おもに埴輪を焼いた窯跡で、多種多様な形象埴輪が出土しています。操業開始は久居古窯址群より若干遅く、5世紀末頃と考えられています。

古代～中世

奈良時代以降、この地域で確認されている遺跡は少なく、集落の様子もほとんどわかっていません。新畑遺跡と志保遺跡で、鎌倉時代の建物が断片的に検出されているだけです。鎌倉時代終わり頃から室町時代にかけて、坂本山古墳群の墳頂部や墳丘裾に中世墓が造られるようになります。これらの中世墓の蔵骨器は、愛知県で生産されたもので、中世の港湾都市である安濃津を通じて、ここへもたらされたものと考えられます。（村木一弥）



新畑遺跡



坂本山中世墓群出土蔵骨器

遺物紹介⑬ 『伊勢片田村史』掲載の須恵器

今回は津市埋蔵文化財センターが保管する資料の中から、『伊勢片田村史』に掲載された須恵器を紹介します。市の西郊部に位置する片田地区には、かつて『埋文センターニュース』で紹介したように、岩田川に沿って坂本山古墳群「第5号」や市指定史跡高井古墳「第13号」、桐狭間古墳群「第1号」等、たくさんの古墳があります。津市と片田村が合併したのが昭和29年、『伊勢片田村史』は、合併を記念し、片田地区の歴史・文化を顕彰するために編纂され、合併後の昭和34年に刊行されました。



遺跡位置図(1:40,000)[国土地理院『津西部』1:25,000より]



『伊勢片田村史』掲載須恵器

八乳合古墳群（1～6）片田井戸町字里前

旧伊賀街道に沿った井戸町集落の背後丘陵に建つ八乳合神社周辺にあった古墳群です。

郷土史家の鈴木敏雄氏が昭和13年(1938)に著した『三重県安濃郡片田村考古誌考』(以下『片田村考古誌考』)によると、1号墳からは、明治末年の神社社殿改築の際に須恵器片と鉄刀が、また、社務所建築の際に提瓶(1)等が出土したとあります。しかし、1号墳があった正確な位置や規模、この提瓶以外の出土品の所在等はわかっていません。

2号墳は神社参道の西側、字堂坂の山林にあった古墳で、大正5年(1915)に石室の石材が採取されて消滅しました。古墳の正確な位置や墳形、規模、石室の構造等は明らかではありませんが、大正7年に東京帝室博物館(現在の東京国立博物館)が出土品の一部を買い上げた際の記録には、石室の規模はおおよそ幅1.5m、長さ2.4m、高さ1.5mの組合せ式石棺があり、石棺の中からは鉄刀片(鉄地銀張りの鍮金つき)、耳環や玉類等の装飾具、また石室からは須恵器や土師器等が出土したとあります。出土品のうち鉄刀片と装飾具、須恵

器等の土器類数点は東京国立博物館の所蔵ですが、『片田村考古誌考』に紹介されている台付椀(2)、高杯(3)、甕(4)、杯蓋(5)、杯身(6)は当センターが保管しています。

片田東浦古墳群（7）片田井戸町字東浦

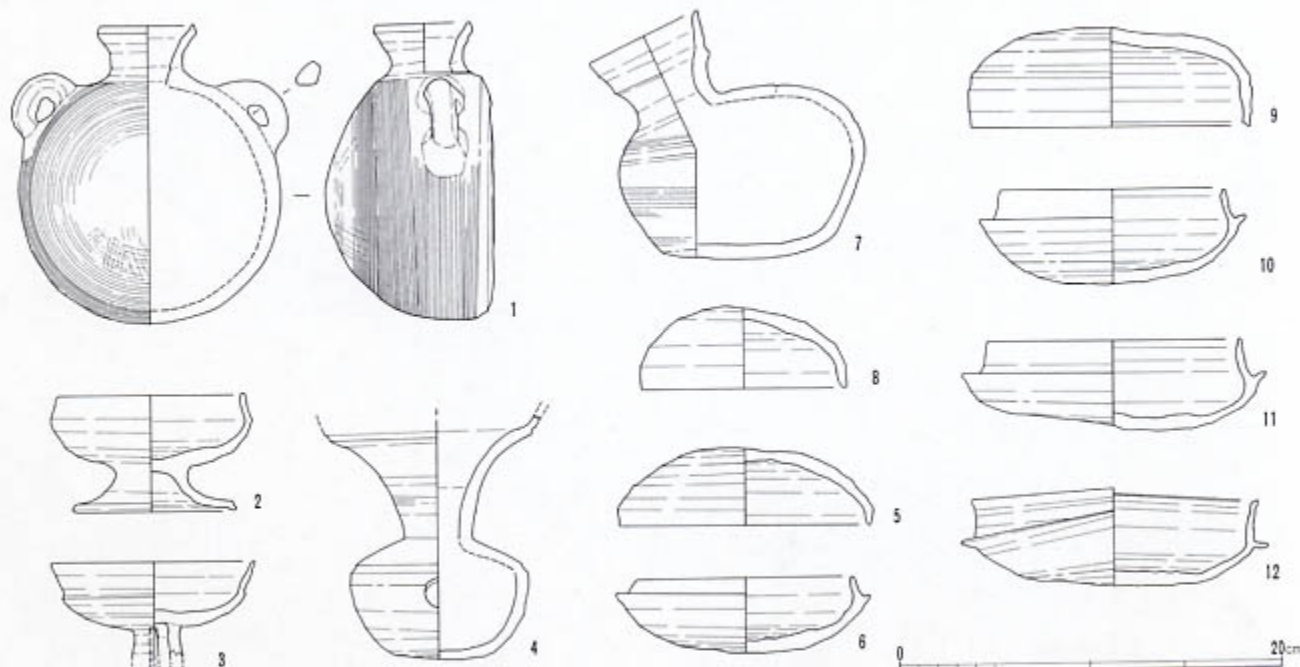
片田小学校の構内にあった古墳群です。『片田村考古誌考』によると、丘陵上に直径7m程の円墳が3基あったのですが、昭和初頭に校地を拡張して校舎を新築したため、丘陵ごと削平されて消滅したとあります。古墳群出土の平瓶(7)を1個保管しています。

榎木（8）片田井戸町字榎木

この杯蓋(8)は字榎木の丘陵からの出土とあるだけで、詳しいことはわかっていません。また、村史には同じく榎木出土の高杯が掲載されていますが、この高杯の所在は不明です。

青のり古墳（9～12）大字野田字大ヶ瀬

古墳はもとは片田長谷場町字青のりの丘陵上に位置しましたが、泉ヶ丘団地の開発に伴い古墳周辺の住居表示が変更され、現在は大字野田に属します。村史には、開墾によって古墳と判断し難いほど破壊されていたとあり、墳丘の詳細は不明です。開墾の際に杯蓋(9)、杯身(10～12)が出土しています。(藤田充子)



『伊勢片田村史』掲載須恵器実測図(1:4)

公民館から見た埋蔵文化財センターと今後への期待

みなさんは、「公民館」という名前からどのような活動を想像されますでしょうか。

人生80年時代を迎え、生涯学習への意識や学習意欲は年々高まってきており、その欲求も多岐にわたります。

津市の公民館では、生涯学習活動のサポート役としての各種講座の開催をはじめ、自主学習活動の場を提供するなどして多くの市民に活用されています。

中でも、津市の公民館事業で特色ある活動のひとつに「動く公民館事業」があります。これは、公民館所有の大型バス「つつじ号」を活用しての“移動公民館”とも言うべき内容で、市内行政施設の視察見学を中心にした“動く市政教室”の名で親しまれています。

公民館では、この市政教室の視察先のひとつとして埋蔵文化財センターの見学を組み込み、センター職員から施設や業務の説明を受け、更には出土した土器の接合体験など、充実した内容を盛り込んでいただいています。市政教室の参加者のほとんどが埋文センターを訪れるのが初めてということもあり、「市役所はこんな仕事もしてるんですね。知らなかったわ。」という声もよく耳にします。

こうした形で埋蔵文化財の一端に触れる機会をつくることは、市の業務を市民に知っていただく手段であると同時に、埋文行政への

理解を一步進めることになるでしょう。しかしながら、1時間足らずの見学時間の中では埋蔵文化財に関する情報をすべて理解することは不可能で、あくまでも導入部分の紹介に過ぎません。

埋文センターの見学によって、「こんな仕事もあるんだなー。」と知っていただくだけでなく簡単ですが、より一歩進んで文化財保護の理念や地域の歴史の内容をわかりやすく伝えることは容易ではないでしょう。

新聞やテレビからは毎日のように遺跡発掘のニュースが溢れ出し、「最古」あるいは「国内初」といったセンセーショナルな見出しとともに伝えられる情報は、どこか自分とは関係のない地域の出来事と感じてしまうのも事実です。しかし、自分の住む地域の歴史を知りたいとの思いから、現地散策型の公民館講座「史跡を訪ねる」には常に定員を越す応募があり大盛況で、こうしたニーズを目の当たりにすると、生涯学習の担当施設としてこれにこたえてゆく必要性をより強く感じます。

市民に、より身近に埋蔵文化財について理解を深めていただくために歴史講座を開講することもひとつの手立てでしょう。県内には歴史講座を開講している公民館も多くあり、講座開催のノウハウの点では公民館に一日の長があるかもしれません。しかし、ただこう



施設案内に耳をかたむける



接合体験

した講座を公民館講座のひとつに埋没させてしまうことは非常にもったいないと感じています。埋文センター独自の事業として講座を企画し実施することで、その主体性の確保や一貫した講座運営、そして内容的にも深みのあるものになるに違いありません。

いずれにせよ、“講座の開催は公民館の専

売特許ではない”ことから、講座内容に最も通じた担当部署が講座を企画実践することこそ、市民にとって真に実のある講座となり、埋蔵文化財に関して言えば、最新の調査結果や研究成果を臨場感をもって伝えることができる格好の機会になると確信しています。

(中村光司)

センター日誌抄 ～平成14年度～

- | | | |
|-------|------------------------------------|---------------------------------|
| 4月～ | 《普及》 市政ガイド「通路探訪 安濃津をゆく(後編)」放映(ZTV) | 9月12日《見学》 市政教室(橋南公民館女性学級) 32名 |
| 8日 | 《調査》 一身田町地内確認調査 | 《調査》 黒木遺跡隣接地確認調査 |
| 22日 | 《見学》 片田小学校 55名 | 18日《見学》 香良洲町文化財保護審議委員 3名 |
| 23日 | 《見学》 神戸小学校 80名 | 20～26日《調査》 賛崎浦海岸遺跡確認調査 |
| 25日 | 《会議》 三重県埋蔵文化財専門担当者会議(明和町) | 27日《見学》 筑紫古代研究会 21名 |
| 30日 | 《普及》 出張講座(雲出小学校) | 10月5日《調査》 高松A・B遺跡隣接地確認調査 |
| 5月7日 | 《普及》 出張講座(櫛形小学校) | 11日《会議》 三重県埋蔵文化財専門担当者会議(四日市市) |
| 9日 | 《普及》 出張講座(修成小学校) | 18日《見学》 南が丘小学校保護者 30名 |
| 10日 | 《普及》 出張講座(安東小学校) | 11月5日《普及》 出張講座(西橋内中学校) |
| 15日 | 《普及》 寿大学講師(豊里公民館) | 14・15日《会議》 公立埋文協東海北陸ブロック会議(愛知県) |
| 16日 | 《見学》 市政教室(むつみヶ丘クラブ) 25名 | 14日《調査》 西焼尾3号墳確認調査 |
| 17日 | 《普及》 出張講座(大里小学校) | 15日《見学》 香良洲町社会教育委員 9名 |
| 20日 | 《普及》 出張講座(育生小学校) | 《見学》 市政教室(一身田町老人会・寿会) 30名 |
| 21日 | 《見学》 安東小学校 19名 | 22日《普及》 安東小学校「安東フェスティバル」講師 |
| 22日 | 《普及》 寿大学講師(豊里公民館) | 12月4日《普及》 南が丘小学校選択教科講師 |
| 23日 | 《見学》 河辺町老人クラブ明寿会 18名 | 1月6日《見学》 教育研究所主催研修会 |
| 27日 | 《見学》 市政教室(八幡地区自治会協議会) 40名 | 21日《見学》 明治カルチャー・ウィーク 49名 |
| 6月7日 | 《見学》 西郊中学校「総合的な学習」 26名 | 2月22日《普及》 考古学ゼミナール 31名 |
| 7月11日 | 《見学》 市政教室(片田公民館寿大学) 44名 | 3月1日《普及》 〃 27名 |
| 15日 | 《普及》 出張講座(敬和小学校) | 8日《普及》 〃 30名 |
| 19日 | 《見学》 市政教室(片田公民館寿大学) 39名 | 14日《会議》 三重県埋蔵文化財専門担当者会議(明和町) |
| 26日 | 《会議》 三重県埋蔵文化財専門担当者会議(白山町) | 15日《普及》 考古学ゼミナール 30名 |
| 9月10日 | 《見学》 市政教室(橋南公民館女性学級) 45名 | |

《編集後記》

「埋文センターニュース」は半期に1度の刊行なので、この編集作業は、ちょうど6ヶ月を計る指標のようになっています。原稿を作成しながら、月日が過ぎてゆく早さに驚き、「そういえば、まだあれも！これも！」と作業の進捗とカレンダーを見比べて焦る今日この頃です。

(編集子)

発行日：平成15年3月31日

編集・発行：津市埋蔵文化財センター

〒514-0058

三重県津市安東町1225

TEL 059-229-0210

FAX 059-229-4601

印刷：共立印刷株式会社

R100

この冊子は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。